

危機下の子どもたち

以下の地図は、2020年末時点での世界における人道的危機、特に子どもたちとその家族に影響を与えている重大な危機を示している。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックは、前例のない世界規模の保健危機であり、人道、社会経済、そして人権の危機を引き起こし、影響を受けた子どもたちの脆弱性を深刻化させている。2020年11月10日現在、世界では5,000万人以上が感染し、120万人以上が亡くなったと報告されている。

中央サヘル地域（ブルキナファソ、マリ、ニジェール）

中央サヘル地域における情勢不安、強制移住、基本的なサービスへのアクセスの欠如、COVID-19の社会的影響により、約1,350万人（うち720万人が子ども）が人道支援を必要としている。



ベネズエラからの移民の流出

6年連続で経済が悪化し、ベネズエラの人道状況は深刻化し続けている。国内にいる約700万人（うち320万人が子ども）とベネズエラから移動した約1,220万人（うち430万人が子ども）が緊急に人道支援を必要としている。



矢印は、紛争による隣国への人々の移動を表す。

本地図の縮尺は調整されており、正確ではない。国境の法的地位に関して、ユニセフとしての何らかの立場を表明するものではない。点線で示されているのは、インドとパキスタンの間で合意された管理ラインである。ジャム・カシミール州の最終的な地位については、両者の間でいまだ合意されていない。スーダンと南スーダンの間での最終的な国境は、まだ決定されていない。

コンゴ民主共和国

コンゴ民主共和国では大規模で複雑な人道ニーズと保護の懸念が続いており、1,100万人以上の子どもたちが人道支援を必要としている。2020年には、2カ所でエボラ出血熱が流行し、国内での対応と近隣諸国へのエボラ拡大を防ぐために重要な封じ込め策が必要とされた。



欧州の難民・移民状況

2020年1月から8月の間に、5万人近くの難民・移民（25%が子ども）が欧州に到着し、この傾向は2021年も続く可能性が高い。移動している子どもたち、特に同伴者がいない、もしくは親と離ればなれになってしまったおよそ1万人の子どもたちは、非常に弱い立場にあり、緊急のケアと保護を必要としている。



スーダン

スーダンでは930万人以上の人々（うち540万人が子ども）が複雑に絡み合う問題に直面している。経済危機により栄養不良が蔓延し、民族間の緊張が暴力に発展し、洪水により生命が脅かされ、COVID-19、コレラ、ポリオ、チクングンヤ熱などの病気が依然として流行している。



中東の長期化する紛争（シリア国内、シリア難民、イエメン）

中東地域には、世界で最も深刻で長期におよぶ2つの緊急事態がある。10年にわたる紛争と人道危機を経て、今もシリアでは局地的な衝突が激化し続けており、国内では1,100万人（うち480万人が子ども）が人道支援を必要としている。この地域のシリア難民は、エジプト、イラク、ヨルダン、レバノン、トルコに560万人（うち250万人が子ども）が登録されており、依然として世界最大の難民危機である。5年以上にわたるイエメンでの紛争の結果、人口の80%にあたる2,430万人以上（うち1,240万人が子ども）が人道支援を必要としている。



長期化する人道危機 （アフガニスタン、ソマリア、南スーダン）

世界的に見ても、人道危機の長期化はますます一般的になってきている。アフガニスタンでは、人道支援を必要とする人々の数が、2019年の940万人から2020年には1,400万人に増加している。ソマリアでは、紛争によって子どもたちの生活が破壊され続け、子どもたちの保護はますます難しくなっている。南スーダンでは、長年にわたる紛争、慢性的な脆弱性、必要不可欠なサービスの弱体化が積み重なった影響を受けている。

モザンビーク

モザンビークの人道状況は、カボ・デルガド州での紛争の激化により悪化している。42万5,000人以上（うち19万1,000人が子ども）が避難し、13万5,000人以上が食料不安に陥り、深刻な基本的サービスの中断が起きている。



バングラデシュとミャンマーのロヒンギャ危機

ミャンマーでは、100万人以上（うち45万人が子ども）が10年にわたる紛争の影響を受けており、ジェンダーに基づく暴力、搾取、虐待、拘留、人身売買の被害へのリスクが高まっている。バングラデシュでは、コックスバザール地区に住む86万人以上のミャンマーからのロヒンギャ難民が、依然として国際支援に頼らざるを得ず、COVID-19の影響を受けやすい状況にある。

